

住友生命様発行の「SUMISEI Bestbook」に当社社長のインタビュー記事が掲載されました

住友生命保険相互会社様が発刊する広報誌「Bestbook」に当社社長のインタビュー記事が掲載されましたのでお知らせします。

「SUMISEI Bestbook」は、住友生命保険相互会社様が、様々なジャンルの新刊から、毎月お勧めの12冊を紹介し、1985年から消費者や取引先に向け6万部を発刊している月刊の広報誌です。

この中に、「パーソナリティ」というコーナーがあり、歴史上の人物や各界の経営トップのインタビュー記事が掲載されています。



本文、以下紹介いたします。

個別事情に沿った
オフィスの在りようについて
経営的視点にかなう
ソリューションを提供する

株式会社くろがね工作所
代表取締役社長
社長執行役員
田中成典氏

高校時代の読書体験が人格形成に影響を与えた

子どもの頃から本は好きでした。小学生のときは、子ども向けの小説、「怪盗ルパン」シリーズや「名探偵ホームズ」シリーズ、また図鑑をよく読んでいました。

中学校に入ると、文庫本で海外小説を読み始めました。兄の影響で北杜夫、当時「第三の新人」といわれた遠藤周作や安岡章太郎、吉行淳之介、庄野潤三といった作家たちの小説やエッセイなどに手を出したりもしましたね。

高校生になっても読書熱は冷めず、古文や漢詩、哲学・宗教書、ブルーバックスなどの科学書籍、歴史書とジャンルが一気に広がりました。この時期に多くのジャンルの本を読み漁った読書体験が、私の今に至る人格形成に大きな影響を与えたのだと思います。

この頃に読んだ西洋史学者・会田雄次の『アーロン収容所』は、私がこれまでで最も衝撃を受けた本です。これは、著者が捕虜としてビルマの英軍収容所で強制労働の日々を送った体験を記したものです。私の父は職業軍人で、本人はあまり軍隊時代の思い出を語りませんが、青年将校として青春時代を過ごした軍隊に強い郷愁を抱いていたのは感じていました。そんな父に対する少年期にありがちな反発心や、当時の進歩主義的な教育の影響もあって、私はいわゆる西洋かぶれをしていたんですね。特に英国への憧れが強かったのですが、この本でそんな幻想や憧憬を見事に打ち砕かれました。同時に欧米が優れている日本・東洋が遅れている、という単純な戦後の価値観にも懐疑を抱きました。その反動もあり、大学に入ってから和辻哲郎、山本七平などの著書に目を通すようになりました。

大学時代は京都で下宿生活を送ったのですが、一緒に住んだ同期の影響により経済学部から法学部に転部し、行政学ゼミに入りましたが、そのゼミ仲間の学問に対する真摯な姿勢を見て、学問で身を立てるのはとても無理だと、研究者の道には早々に見切りをつけました。そして、昼は高校から始めた合気道、夜は学生のたしなみである麻雀に打ち込みました(笑)。

でも、その合間にも読書は続けていました。新たに進化論や宇宙論、人類の起源に興味広がる一方、政治・経済系、時事問題を扱った雑誌なども乱読しました。もっとも、大学の授業にはあまり顔をsausなかつた。もっと真面目に授業に出ておくべきだったと今では後悔しています。

果敢な決断と結果から逃げない責任

私は2023年より、株式会社くろがね工作所の社長を務めております。環境の変化が激しいこの時代において、求められているのは3つ、適切な判断、果敢な決断、十分な反省だと考えています。

当社は過去、学習機で国内トップシェアを誇っていましたが、いろいろな要因から有力商品やお客さまを失ってきた歴史があります。それでも創業以来、先人たちによって守り抜かれてきたのが、「人と環境にやさしい空間創造」という企業理念です。そして、この理念を支えたのが、これまでに培ってきた「ものづくり」の技です。板金を中心とした鉄加工について、設計から塗装・組み立てまでを、ボリュームをともなつて一貫生産できる「ものづくり」のスキル、ノウハウが当社にはあります。この強みを生かし、現在さまざまな設備機器のOEM受注生産の抜本的強化を図っているところです。

当社にはありがたいことに非常に優れたスキル、ノウハウを有し、経験を積み重ねた多くの社員がいます。しかし一方で、それらが個人レベルに留まり、会社としての集団知になりきれていないところが課題です。人材・組織力の底上げを図らなければなりません。

当社が主力とするオフィス家具商品が、機能的によいものであることは当然必要です。それに加えて、「なぜ、その機能がお客さまのオフィスに必要なのか」という視点を社員一人ひとりが持ち、そしてお客さまの個別事情に沿ったオフィスの在りようについて、経営的視点にかなうソリューションを提供できるように、これからのオフィスについての知識・理解をブラッシュアップしていくことが、今、私どもにも求められていることです。そのうえで、中小規模のオフィスの個別需要に丹念に応えられれば、当社の収益力は相当に改善されるはずですよ。

その実現に向けた果敢な決断、そしてそれと一対となる決断した結果から逃げない責任——これが私に最も求められていることだと思います。【談】



田中社長が高校時代に出会い最も衝撃を受けた1冊

『アーロン収容所 改版』

会田雄次著(中公新書)

ビルマ英軍収容所で強制労働の日々を送った歴史家は、どのような体験をしたのか。文化・意識の違いを体感した著者の激しい怒りとユーモアの見事な結合、事実の持つ説得力によって、否応なく読者に西欧観の再考を求める1冊。

編集こぼれ話(抜粋)

「パーソナリティ」では、株式会社くろがね工作所にお伺いしました。同社の主力商品はオフィス家具ですが、学習機を思い出す方も多いのではないのでしょうか。スムーズに位置を移動させられる「スーパースライド」など、子ども心をくすぐる仕掛けいっぱいのでスク。当時を思い出す機会ともなった取材でした。